

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の収束や行動規制が自主判断となり、商店街では来街者が増加している。前日も歩行者天国を実施したが、新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつあり、かなり多くの来客がある。売上も上昇している。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街にもにぎわいが戻ってきている。生鮮食品を中心に、若干ではあるが、買回り品も売上が上向いている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べ、来街者数と来客数が増加傾向にある。客単価と1品当たりの購入単価は下がっているが、来客数の増加で2～3か月前よりはやや良くなっている。
	○	一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・飲食店向けの単価が高水準で推移している。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・ばらつきはあるが、売上が良い店や新規開店の店がある。一方、全く売れない店の話も聞いており、売上が良い店との温度差が開いている。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・複数人での来店が増加しており、購入した多くの商品を持っている様子が見受けられる。
	○	百貨店（経理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行したことにより、来客数が増加し、食料品及び飲食の売上が改善している。化粧品の売上も好調で、紳士服や子供服関連はやや苦戦しているが、婦人服等の売上は徐々に改善している。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行し、来客数が増加傾向にある。特にゴールデンウィーク期間中は新型コロナウイルス感染症発生前の数値まで回復している。ゴールデンウィーク後も来客数は伸びている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価が前年を上回っており、来客数の増加も定着している。商品値上げの影響も今のところなく、インバウンドも増加している。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・観光客の来客数が多少増加傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価上昇にもかかわらず、来客数が増加している。
	○	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は前年比を割っている日もあるが、客単価や買上点数が高い分、売上が前年を上回っており、しばらくはその状態が続くと予想される。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・映画館の全体的な売上は、ゴールデンウィークから実績数値が良く、前年を上回る推移である。その要因として、天候が良くなかったため室内で過ごす傾向への追い風となったことが挙げられる。また、上映したアニメが人気となったため売上が好調に推移している点も、全体に与える影響が大きく、シネマの売上は前年比160%と伸長している。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・国内外の観光客が共に増加し、新型コロナウイルス感染症発生前の状況に近づきつつある。
	○	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行されてから人通りが多くなり、旅行者も市内の客も宴会利用が多くなっている。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になり、外食の機会が新型コロナウイルス感染症発生前のレベルに戻ってきた。
	○	居酒屋（経営者）	単価の動き	・インバウンドの客が増え、価格の高いメニューの注文が多くなっている。
	○	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・商品販売量の推移上では順調に景気が回復しているが、原価が上がっているため、現状はやや良くなっている状態である。個人所得は増えておらず、今後の原価高騰を抑制する政策に期待している。

○	都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・物価高騰に伴い、宿泊料金などが値上がりしている。
○	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・国内企業の社員旅行需要が高まり、団体旅行も増えている。
○	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊やレストラン、宴会場の利用者数が増加しており、景気は若干良くなっている。
○	旅行代理店(職員)	販売量の動き	・海外からの入国規制緩和により、訪日観光客の申込みが増加している。
○	タクシー運転手	お客様の様子	・コロナ禍でのタクシー利用が増加し、忙しくなっている。
○	通信会社(役員)	お客様の様子	・全国旅行支援の影響もあり、市内宿泊業が好調に推移している。また、期間限定ではあるが地域の高規格道路建設事業が継続して発注されている影響もあり、建設業や飲食業は好調に推移している。
○	観光名所(職員)	お客様の様子	・観光バスの利用者が増加し、観光客が動き出した実感がある。
○	理容室(経営者)	お客様の様子	・客からの情報では、どの業種も仕事量が徐々に増加して景気が良くなっているが、理美容業界では人口減少や進学・就職で人の動きがあり、6月からは非常に厳しい状態になってくる。
○	美容室(経営者)	販売量の動き	・気候が良くなっているため、景気が向上している。客の動きが活発化しており、売上も増加し、3か月前と比較すると徐々に来客数が上向いている。
○	その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類されたことに伴い、新型コロナウイルスの感染症対策を理由としたサービスのキャンセルが減少傾向にある。
○	住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークに開催したイベントにより、客足が増えてきており、客の動きが徐々に出てきている。
□	商店街(代表者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークや気候の影響で、人の動きが少し活発になっている。
□	商店街(代表者)	販売量の動き	・5月は、3～4月と比較すると人の動きは良いが、売上は厳しい状態である。
□	商店街(代表者)	お客様の様子	・商店街では2分の1が火事で焼失しており、仮店舗が一部できているが面積が狭く、客が満足できる商品を出すことができず危惧している。
□	一般小売店[生花](経営者)	販売量の動き	・5月は、母の日という一大イベントがあるため売上が多くなる。今年は新型コロナウイルス感染症が収束した影響で、ゴールデンウィークで既に贈物をしているため花代は低めになっているものの、売上は悪くない状態である。卒業シーズンから需要は落ちずに順調に売上が伸びている。
□	百貨店(営業担当)	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行や、クルーズ船の寄港が増加したことにより、商店街への国内外からの人の動きが更に大きくなっている。店頭では各種催事の実施により来客数は増加している。また、商店街のプレミアム付商品券の利用もあり、購買意欲が上がり商品単価は上がっている。スポーツ用品、紳士婦人雑貨、化粧品、子供用品など自家需要商品は堅調を維持しているが、客単価が伸びていない。また、店頭への来客数は増加しているが、県内サテライト各店への来客数は伸び悩んでいる。
□	百貨店(経営企画担当)	お客様の様子	・売上が期待されるゴールデンウィーク後半が悪天候となり苦戦したが、催場での売上は軒並み前年を上回って推移している。ただし、来客数や売上の伸長率は3か月前と比較し、鈍くなっている。
□	百貨店(業務担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等はないが、これまでの生活スタイルが定着し、高齢者の多くは外出することに慎重になっている。来店も前年よりやや増えているが、新型コロナウイルス感染症発生前と比べると8割程度で進捗している。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・1品単価の上昇は止まらず、結果として、1人当たりの販売点数は減少に転じている。消費が伸びているとはいえない状況で、景気が上向いているともいえない状況である。

□	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・食料品が幅広く価格上昇し、売上は前年比を超えているが、買上点数は前年比99%で推移している。価格が前年と同じであれば、売上が前年割れとなっている状況であるため、決して景気が良いとはいえない。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・売上は前年を上回る傾向にあるが、商品値上げによる商品単価上昇とそれに伴う客単価上昇が要因とみられる。来客数は前年をやや下回る傾向が続いており、物価上昇によって特売日を狙った買回りの傾向があるとみられる。
□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・全般的な値上げの影響で単価が上昇し、来客数や買上点数が減少しているが、売上は前年を超えている。また、他の地域では来客数や売上の減少が大きい。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は戻っているが、1人当たりの買上点数は前年比の微減が続いている。その要因は、新型コロナウイルスの感染対策としてのまとめ買いをやめたことが考えられる。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークで人出が若干多くなり、景気が良くなっているようにみえるが、商品の値上げで前年より買上点数が低くなり、全体的な売上は前年を下回っている。ゴールデンウィーク後、来客数の大幅な増加はみられず、前年を下回る結果になっている。
□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・5月初旬の来客数は多かったが、ゴールデンウィークが終わると同時に来客数は減っている。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・2月と比較すると、季節の変化に伴い商品の取引が活発化している。しかし、身の回りの値上げで単価が上がっているため、購買には慎重で購入点数も少なくなっている。
□	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・円安や原材料の値上がりがまだ続いており、来月から再値上げする予定の商品は売れているようだが、全体的には厳しい状況である。
□	住関連専門店（従業員）	販売量の動き	・顧客を招いての催事を行ったところ、単価の高い商品が好調に販売できたものの、中間価格帯が振るわず、結果として例年どおり横ばいの売上となっている。
□	その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	販売量の動き	・3月にはコーヒーの需要が多く5月には落ち着いてくる。今年の販売量も前年と変わらない状況である。
□	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症発生による影響で減少していた旅行会社経由の客が、増えてきている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・5月中旬以降、人の流れは減少傾向であるが、夜の繁華街は週末を中心にかなり回復している。タクシー運転手不足は続いており、稼働台数が少ない分、1台当たりの収入は増加している。
□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・前月に引き続き、光回線の販売件数が低迷している。
□	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・韓国からの来場者数が減少したが、地元の来客数が堅調を維持しており、天候による増減はあるものの、来場者数は順調に推移している。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・周りを見ると景気が良くなっているようだが、現実には来客数が増えず、良くなっていない。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・工場の操業状況や客の受注状況では、引き合いが好調になっているものの、受注にはつながっておらず、利益が見込めない。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築では、材料費や製品代の値上がりが続いている。施工は価格転嫁がしやすいが、設計では人件費が主となるため価格転嫁がしづらいのが現状である。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、観光地などインバウンドの影響により集客数が多くなり、人が動くことで景気が良くなっている。
▲	商店街（代表者）	単価の動き	・3～4月の年度移行期と比較すると景気は落ち着き、例年どおりの状況である。
▲	一般小売店 [青果]（店長）	単価の動き	・5月になって、真夏日が2回あり、暑さで売上が落ちている。また、県産物であるピーマンやキュウリ、トマトなどはゴールデンウィーク前の半額になっているが、販売量が増えず、全国的にも商品の売行きはよくない。

	▲	一般小売店 [茶] (販売・ 事務)	来客数の動き	・景気は回復しつつあり、世の中の生活は良くなっているが、新型コロナウイルス感染症発生以降、売上は低迷状態が継続している。新茶の時期であるが、例年と異なり、売上は伸び悩んでいる。来客数は少なく、物価高騰も原因の1つである。
	▲	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・ゴールデンウィークで消費した客が多いため、来客数は増えているものの買上率は下がっている。母の日ギフトの平均単価も前年より下がっている。
	▲	家電量販店 (店 長)	お客様の様子	・来客数が前年比80%台となり減少傾向に拍車が掛かっている。コロナ禍になってからの巣籠り需要や持続化給付金による需要等で予算を先に費やした影響や、行動制限が緩和され、需要が旅行など外向き傾向となっていることが要因と考えられる。
	▲	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・新車の受注が低調で、前年実績を下回る水準で推移しており、新車目的の来客数も少なくなっている。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきており、皆の関心が車以外に向いていると考えられる。
	▲	乗用車販売店 (役員)	来客数の動き	・県内全店舗で車両購入を検討している客が減少している。受注台数も前年を下回る予測である。
	▲	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・4月はまだ新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類されていなかったが、個人客の利用が多く経営が上向している実感があった。しかし、ゴールデンウィークが終わり、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類されたにもかかわらず、法人の団体予約は慎重で、会食の動きが少ない。
	▲	その他サービスの 動向を把握できる者 [フィットネスクラブ] (営業)	販売量の動き	・観光業の低迷が続き、その上、光熱費の上昇が報道され、来客数や販売量に好転の兆しはみられない。
	▲	設計事務所 (代 表)	お客様の様子	・物価高騰や金利上昇があるため、状況をみている。
	▲	住宅販売会社 (代表)	お客様の様子	・来客数は少なくなり、客の予算も減少している。給料が上がらず物価が上がっているため、買い控えや節約がみられる。
	×	家電量販店 (店 員)	販売量の動き	・冷蔵庫や洗濯機、テレビ、エアコンなどの大物家電の動きが、そのまま店の売上に悪影響を及ぼすほど落ち込んでいる。
企業 動向 関連	◎	経営コンサル タント (代表取締 役)	取引先の様子	・今月は休みが多かったこともあり、売上が伸びていない企業もあるが、ゴールデンウィークの影響で飲食業やサービス業の景気はかなり良くなっている。
(九州)	○	農林水産業 (経 営者)	受注量や販売量 の動き	・原料になる鶏が少なく、取引先の要望に対応できない状態である。特に冷食メーカーからの引き合いが強く、利益は計画どおりに計上されている。量販店や居酒屋も好調である。
	○	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・収穫時期の農産物を原料とした商品製造の最盛期のため、景気は若干良くなっている。
	○	金属製品製造業 (事業統括)	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の規制が解除になり、人の動きが活発化し、景気が良くなっている。
	○	一般機械器具製 造業 (経営者)	取引先の様子	・取引先の経営状況が3か月前から変わりつつある。外注の確立や取引先の体制や構成を整理しており、業界の動きに合わせた動きになりつつある。その結果が出てくる時期でもあるため、売上は若干良くなっていく。
	○	電気機械器具製 造業 (取締役)	受注量や販売量 の動き	・当社は半導体製造の後工程分野を担当しており、パワー半導体関連の取引先からの引き合いは強い。駐輪、駐輪場関連では、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、人の流れが戻っている影響も大きい。
	○	建設業 (社員)	受注量や販売量 の動き	・官公庁の発注予定が出そろい、既に入札も執行されている。順調に発注が執行されれば、景気も上昇傾向になると予想されるため、県、市、双方の発注が同じように執行されることを期待している。
	○	金融業 (従業 員)	取引先の様子	・家電販売は横ばいであるが、百貨店・スーパーマーケット、住宅の売上は増加している。飲食店や旅館・ホテルの売上は緩やかに回復し、賃上げを実施する企業が増加するなど、雇用、所得環境も改善している。

○	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症を5類感染症に移行するなどの政策により、商流、人流は正常化している。旅行、イベント、サービス業など活況を呈している。
○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・ゴールデンウィークの交通機関の利用実績は、新型コロナウイルス感染症発生前の9割程度まで回復している。宿泊施設の稼働状況も前年を上回る場所が多く、経済活動の正常化の兆しがうかがわれる。また、マスク着用が個人の判断となり、口紅や日焼け止めなどの需要が高まっている。賃上げの動きも徐々に広がっているが、物価高に対する警戒感は根強く、消費者の慎重な購買スタンスに大きな変化はみられない。
○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・ゴールデンウィークに当市で4年ぶりに通常開催のイベントが行われるなど、新型コロナウイルス感染症発生前の街並みに戻ってきている。また、取引先からの前向きな借入れも増加している。
○	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・通信販売や旅行広告は堅調である。
○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金などの支給が3月末で終了したことから、取引先の動きは少しずつ前向きに変わってきている。売上の前年比はまだマイナスの状況であるが、景気マインドは3か月前と比べ良くなっている。
○	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・最近、仕事の引き合いがはじまっている。
○	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことにより、個人消費に加えインバウンド需要も増加し、景気は若干上向き傾向にある。
□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー関連の受注量や引き合いの量は前回と変わらず多い。その他の業種は一段落しており、業界によって忙しさに温度差がある。
□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・食品やアパレル、雑貨関係の輸入は依然として低調である。輸出は少しずつ回復しているが、スポット的な大型案件が現在はない。ビジネスとしては各荷主共に手堅く進めている状況である。
□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業を含め、業種全般的に売上の回復がみられるが、原価や人件費の高騰等により利益は増加しておらず、むしろ減少している企業が大半である。
□	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・自社の販売状況に余り変動がない。
□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行され、活気が戻っているように見受けられるが、足元の景気を押し上げるまでには至らない。
□	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・ビールや発泡酒より、リキュールやスピリッツの売上が増加し、需要が低価格傾向になりつつある。
□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況に大きな変化はない。
□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・今年度の各市町村の当初予算では、高齢者や障がい者、健康増進に関する調査や計画策定の業務の予算化が行われている。しかし、入札においては、採算を度外視したような価格で落札する業者が多く、業界としては景気が悪い状態となっている。
▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・社外的な問題ではなく、労働力不足が1番の問題である。受注は十分あるが、どこの工場も、注文を請け負える労働力が不足している状態である。
▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・産地全体として受注関係がやや悪くなっている。特に値上げの商品の売行きが悪化しており、一部のブランド商品の値上げの反動により、売れ筋商品が停滞している。2～3か月はこの状態が続くのではないかと心配している。
▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注価格や販売価格の動き	・米国の債務上限問題により全体的に相場が下落し、先が見えない状況である。
▲	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前の出荷量が期待値よりも大幅に下回り、売上の前年比は減少している。ゴールデンウィーク後は更に出荷量が減り、消費は伸びていない。

	×	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの受注も低迷が続いており、数か月先もこの状況は変わらない。
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連を中心に取引先が在庫調整を行っているため、受注量が減少している。
雇用 関連 (九州)	◎	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・企業の求人数が増えたことで、学生の取り合いが起こっている。例えば、大学にしか求人を出していなかった企業が、専門学校にまで求人を出すようになり、非常に良い状況である。一方、企業側にとっては、新型コロナウイルス感染症発生前のような採用難になっている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・イベント関係の実施が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻りつつある。
	○	人材派遣会社（社員）	それ以外	・人材の採用が難しくなっていることなどから、業務の外部委託を検討する企業が増えている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、接客業や事務の注文が増えている。時期的な注文を久しぶりに受ける企業もある。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・5月に入り新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症となつてから、当市の飲食店を専門にした求人サイトで、求人活動が積極的になっている。
	○	新聞社〔求人広告〕（社員）	それ以外	・休日の夕方に繁華街を歩いたが、人流が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻ってきている。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2024年3月卒業予定の大学生や大学院生を対象とした大卒求人倍率は1.71倍となり、2023年卒の1.58倍より0.13ポイント上昇している。これに伴い、本学への2024年卒求人数は、前年と比較して確実に増えており、今月からは内定報告を行う学生も増えている。
	□	人材派遣会社（社員）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行し、派遣市場ではもう少し受注数や登録者数が伸びるかと期待していたが、余り増加していない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・人手不足による企業の求人活動も増えているが、求人担当者のお話では、人材が集まらず、定着しない状況である。時給は上がっているが、その分の値上げが景気回復の足を引っ張っている。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・求人数の前年比は増加しているが、求職者数は減少している。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への引下げに伴い、飲食業や観光業、宿泊業などで売上が戻ってきている状況ではある。しかし、様々な業種で燃料費や食材費、原材料費、光熱費等の高騰により経費がかなり増えている。また、人手不足で今後の見通しが立たず懸念される企業もある。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・イベントの再開等で宿泊業や飲食業、小売業等の業績回復が見込まれるが、エネルギー価格や原材料費の高値が続くなど、事業環境悪化の要因も複数あるため、景気は変わらない。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・物価高騰、円安、低賃金の状態が続いている。
		▲	—	—
	×	—	—	—